

HELICS チュートリアル 「病とともに生きる時代の医療情報標準化」

- ◇ 医療情報学連合大会 2012 における HELICS チュートリアルは、
11月14日12時30分から、
E会場（中会議室 201（174））において開催されます。
- ◇ **参加登録は必要ありません。** どなたでも入場できます。
- ◇ 次第の詳細は以下の通りです。

1. 第1部 「病とともに生きる時代の医療情報」講演
 - 司会 HELICS 協議会広報委員会 篠田 英範氏
 - 開会：HELICS 協議会会長 安藤 裕氏
 - 疾病構造の変化と医療の情報化 厚生労働省 政策統括官室
情報政策担当参事官室 野口 貴史氏
 - 医療情報の標準化の動向 HELICS 協議会広報委員会 豊田 建氏
 - 病とともに生きる時代の医療 北里大学病院 村田 晃一郎氏
2. 第2部 「病と共に生きる時代の医療情報標準化」パネル討論
 - 司会 HELICS 協議会標準化委員会 稲岡 則子氏
 - パネル討論者
 - 厚生労働省・政策統括官室・情報政策担当参事官室 野口 貴史氏
 - HELICS 協議会会長 安藤 裕氏
 - HELICS 協議会広報委員会 豊田 建氏
 - 北里大学病院 村田 晃一郎氏
3. 技師ポイント 1点
(申請用紙は、当日受付にて、チュートリアル要旨とともにお渡しします)

病とともに生きる時代

今年も医療情報学会連合大会の季節がやってきました。HELICS 協議会では医療情報学会の春・秋の大会に合わせてチュートリアルを開催してきました。今回は「病とともに生きる時代の医療情報標準化」と題して、これから我が国として取り組む必要があると考えられる医療情報の標準化について考えてみたいと思います。

我が国は、世界有数の長寿国です。寿命は 2011 年時点で女性 85.90 歳、男性 79.44 歳です。図 1 は 2011 年版厚生労働白書からの転載ですが、1947 年以降 2010 年までの死因別死亡率の推移を示しています。この図から、がんや心臓病、脳卒中といった疾病が死亡率の高位を占めるようになってきたことが分かります。細菌による疾患から悪性新生物や生活習慣に遠因をもつ疾患による死亡者の率が増えている状況といえるでしょう。これに糖尿病な

ど、いわゆる生活習慣病を加えると、これらの治療のための費用が我が国の医療費を押し上げているといわれます。ちなみに、2009年度の循環器系、新生物、呼吸器系疾患の、総一般医療費に示す割合は約41%でした。また、糖尿病は4.4%を占めています（糖尿病ネットワーク発表資料「国民医療費、過去最高の34.8兆円 国民所得の1割に」（2010年12月1日））。

現在我が国の国民医療費は、毎年1兆円以上増加しています。このまま推移すれば、2030年度には、GDPの9.8%程度となり（図2（財務省資料2011年2月）参照）、我が国の財政状況をますます悪くする要因ともなりかねない状況にあります。

こうした状況は、我が国の医療制度にも原因がありますが、悪性新生物の治療等や糖尿病の重症化によって透析が必要になるなど、ときに病とともに生きることも必要になり、高額医療費のかかる疾病が増加していることにも原因を求めることが出来ます。こうした医療費の高騰を出来るだけ抑えるべく、行政も努力しているところではありますが、我々国民も健康の維持のためにより努力すべきときに、またより効率よく医療を提供することも考えるべきときになっているといえるでしょう。そして、病とともに生きる時代においては、国民が努力するためにも、効率のよい医療の提供のためにも、効果的な情報の利用が必要であることがいわれています。このための一つの手段として、個人が自らの健康に留意するための情報が提供されること、過去の診療情報を利用出来ることが挙げられます。このチュートリアルでは、生涯にわたる診療情報の利用を可能とするためには、何が必要となるのか、また、医療情報の標準化の観点からはどのような施策をとるべきかなどを、欧米で行われていることも見ながら議論をしてみたいと思います。

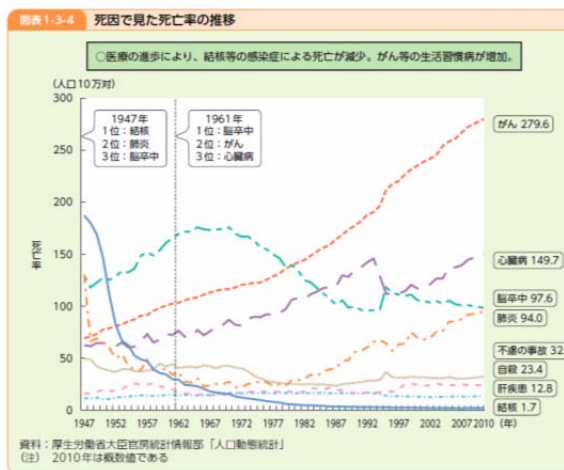


図1 死因別死亡率の推移
(2011年版厚生労働白書、

<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/11/>)

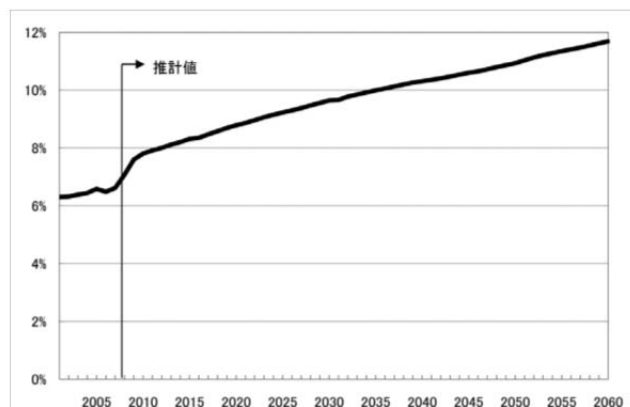


図2 医療費対名目GDP比の将来推計
(わが国の医療費の将来見通し、財務省、

https://www.mof.go.jp/pri/research/specia1_report/f01_2011_02.pdf)